

# 未来の居場所づくりシンポジウム in 兵庫 タイムテーブル

※時間は多少前後することもあります

日 時	内 容 (敬称略)
13:00	○受付開始
13:25	○オリエンテーション
13:30	○開会宣言 船越 明子(神戸市看護大学 教授) ○主催者挨拶:KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 理事長 伊藤 正俊 ○来賓挨拶: 泉 房穂 様(明石市市長)
13:40	○基調報告「親しまれる居場所づくりのポイント」 境 泉洋(宮崎大学准教授)
14:05	○行政説明「ひきこもり支援施策における居場所の重要性」 安西 慶高(厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 課長補佐)
14:35	○質疑応答
14:50	○休憩
15:00	○シンポジウム 「行ってみよう、やってみよう、支えてみよう、ひきこもりの居場所」 座長:池上正樹(KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 理事 ジャーナリスト) ①シンポジストによる活動実践報告 「女性とひきこもりと居場所」 林 恭子 「趣味で集まる居場所づくり」 下村宜生 「孤立を生まない誰でも集える場」 松本むつみ 「家族の居場所と本人の居場所」 藤本圭光(よしひこ)
16:00	②実践者によるディスカッション
16:20	○クロージング
16:30	○閉会の挨拶: 境 泉洋 (KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 副理事長)
17:00	○完全撤収 ○記者レクチャー (18:00まで会議室1103号室で、出演者と記者とのレクチャーを行います)

## 【出演者のプロフィール(出演者順)】

### ●船越明子(ふなこし・あきこ)

神戸市看護大学 教授。神戸市出身。ひきこもり青年をもつ親の支援については、ライフワークとして取り組んでおり、家族会、ひきこもり地域支援センター、保健センター等で講演や助言活動を行っている。現在は、社会的に孤立状態にある人への訪問支援のノウハウを明らかにする調査研究に力を入れている。著書に「ひきこもり親の歩みと子どもの変化」(単著、新曜社)、地域における引きこもり支援ガイドブック(共著、金剛出版)など。

### ●伊藤正俊(いとう・まさとし)

1991年 山形県米沢市で「登校拒否の子を持つ親の会」を立ち上げ

1995年 山形県米沢市で「不登校親の会 山形県ネットワーク」を立ち上げ

2003年 同会を「ひきこもり家族会」に変更

2005年 全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会) 山形県支部として参加

2006年 特定非営利活動法人「から・ころ」開設 代表理事就任

ひきこもり本人の居場所を開設・運営

2010年 「から・ころ」が就労支援事業所として山形県から委託。

その後、就労継続支援B型作業所も受託し、高齢者宅への宅配事業やレストラン事業を運営

2014年 「全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)」副理事長に就任

2016年 「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」に改称し、同年、共同代表に就任

### ●境 泉洋(さかい・もとひろ)

宮崎県生まれ。1999年宮崎大学教育学部卒。2005年早稲田大学 博士(人間科学)。公認心理師、臨床心理士。2004年志學館大学、2007年徳島大学を経て、2018年4月から現職、宮崎大学教育学部准教授。

KHJ全国ひきこもり家族会連合会副代表、日本認知・行動療法学会事務局長、日本臨床心理士会ひきこもり対策専門委員会副委員長、内閣府「生活状況に関する調査」企画分析委員、NCNP精神保健研究所薬物依存研究部客員研究員、認知行動療法研究常任編集委員、認知療法研究常任編集委員、雑誌「臨床心理学」(金剛出版)編集委員。筆頭著書に「CRAFT ひきこもりの家族支援ワークブック」(金剛出版)、編著書に「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」(金剛出版)などがある。

### ●池上 正樹(いけがみ・まさき)

通信社などの勤務を経てジャーナリスト。日本文藝家協会会員。YAHOO!ニュース個人オナーサー。20年以上にわたって「ひきこもり」関係の取材を続け、1000人以上の当事者とやりとりしてきた。KHJ全国ひきこもり家族会連合会を発足当初からサポートし、現在は広報担当理事。東日本大震災後は被災地に入り、ひきこもり当事者が震災でどう行動したかを調査。TVやラジオにも多数出演。2012年から都内で開かれている対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵-IORI-」の設立メンバー。東京都町田市「ひきこもり」専門部会委員なども務める。著書は『ルポ「8050問題」～高齢親子“ひきこもり死”の現場から』(河出新書)、『ルポひきこもり未満～ルールから外れた人たち』(集英社新書)、『ひきこもる女性たち』(ベスト新書)、『大人のひきこもり』(講談社現代新書)、『ダメダメな人生を変えたいM君と生活保護』(ポプラ新書)、『あのとき、大川小学校で何が起きたのか』(青志社/共著)など。

●林 恭子(はやし・きょうこ) (一般社団法人ひきこもり UX 会議代表理事)

高校2年で不登校、20代半ばでひきこもりを経験する。信頼できる精神科医や同じような経験をした仲間達と出会い少しずつ自分を取り戻す。現在はNPO法人に勤務しながらイベント開催や講演などの当事者活動をしている。新ひきこもりについて考える会世話人/ヒッキーネット事務局 /NPO法人 Node 理事 厚労省「地域共生を目指す居場所づくり事業」委員、東京都ひきこもり支援協議会委員

●下村 宜生(しもむら・のりお) (「はじまりの街」世話人)

愛称:黒ひげ☆ 1972年兵庫県生まれ。美術大学卒業後、高校の非常勤講師として勤務。2000年頃から、冒険遊び場(プレーパーク)の活動をはじめ。その後、まちづくり活動を行うNPOに参加し「居場所づくり」や「サードプレイス」という概念と出会い、子どもや若者にとっての居場所のあり方について考察と実践を始める。2014年、ひきこもり当事者の若者と出会い、プレーパークで一緒に活動。2019年、アニメやゲームなどの「サブカルチャー」をツールとした「居場所」を思いつき賛同者を集め『はじまりの街』を始める。

●松本 むつみ(NPO法人 ピアサポートひまわりの家 副理事長)

小学校の教師を35年。退職後、淡路景観園芸学校に入学し園芸療法士になる。地域の皆さんと一緒に、空き家になっていた実家を改装して、NPO法人高次脳機能障害ピアサポートひまわりの家としてガーデンカフェを開く。カフェに集まってきたひきこもりの若者たちにかかわる中で、KHJ全国ひきこもり家族会連合会を知り、兵庫県中央支部として居場所づくりに取り組む。当事者たちと一緒に、2つ目の居場所「歩歩」を作る。「歩歩」では、居場所と共に、ピアサポーターを中核にして、医療・福祉・法律の多職種連携で、相談支援・訪問支援にも取り組んでいる。KHJひきこもりピアサポーター。精神保健福祉士。

●藤本圭光(ふじもと・よしひこ) (NPO法人神戸オレンジの会 理事長)

1973年 兵庫県神戸市生まれ。1997年 流通科学大学商学部経営学科を卒業後、フリーターをしながら不登校の親の会などを回り始める。2002年、京都国際社会福祉センター社会福祉士養成課程を卒業後、精神科クリニックに勤務。退職後、2005年よりアウトリーチ神戸を立ち上げ、不登校・ひきこもりの方への訪問援助活動を開始。2006年よりNPO法人神戸オレンジの会の居場所スタッフ。2007年、こうべ若者自立塾スタッフ・こうべ若者サポートステーションスタッフ。2011年より現職。社会福祉士・精神保健福祉士。